

信州大芝高原総合利用計画

*** みどりとふれあいの持続的空間づくり ***



平成 13 年 3 月

平成 14 年 5 月 (一部変更)

平成 21 年 12 月 (一部変更)

長野県上伊那郡南箕輪村

目 次

1 基本コンセプトの策定

1 - 1	与条件の整理	1		
			1 - 1 - 1	計画地（南箕輪村）の現況 1
			1 - 1 - 2	上位計画について 4
			1 - 1 - 3	本計画の目的と位置付け 5
1 - 2	計画地の現況	6		
			1 - 2 - 1	計画地の位置と概況 6
			1 - 2 - 2	計画地の特性 7
			1 - 2 - 3	アクセス 7
			1 - 2 - 4	温泉 8
			1 - 2 - 5	観光の可能性 9
1 - 3	基本コンセプトの設定	14		
			1 - 3 - 1	機能の整理 14
			1 - 3 - 2	基本コンセプトの確認 16
1 - 4	各機能と事業の相関	17		
1 - 5	機能とゾーニング	18		

2 施設整備基本計画

2 - 1	既存主要施設の状況	20		
			2 - 1 - 1	自然林ゾーン 20
			2 - 1 - 2	林間ゾーン 20
			2 - 1 - 3	スポーツゾーン 20
			2 - 1 - 4	健康ゾーン 21
			2 - 1 - 5	宿泊・リラックスゾーン 22
			2 - 1 - 6	四季のふれあいゾーン 23
			2 - 1 - 7	総合的施設その他 24
2 - 2	最近の整備状況	27		
2 - 3	全域にわたる施設計画	28		
			2 - 3 - 1	施設整備の課題 28
			2 - 3 - 2	施設計画の方向性 28
2 - 4	緑の交流エリアの施設計画	29		
			2 - 4 - 1	施設整備の課題 29
			2 - 4 - 2	施設計画の方向性 29
2 - 5	ふれあい交流エリアの施設計画	30		
			2 - 5 - 1	施設整備の課題 30
			2 - 5 - 2	施設計画の方向性 31

3 新規施設計画

3 - 1	新規計画施設の概要	32	
			3 - 1 - 1 情報交流ステーション 32
			3 - 1 - 2 公園内施設案内・誘導設備 32

4 リニューアル計画

4 - 1	周辺道路	33	
4 - 2	遊歩道	33	
			4 - 2 - 1 遊歩道の施設特性 33
			4 - 2 - 2 遊歩道の内容 33
4 - 3	駐車場の配置	33	
4 - 4	トイレの適正配置	34	
4 - 5	野球場	34	
4 - 6	アスレチック施設	34	
4 - 7	マレットゴルフ場	34	
4 - 8	研修センター	34	
4 - 9	その他	34	

5 ソフト事業計画

5 - 1	ソフト事業展開の方向性	35	
5 - 2	ソフト事業展開におけるテーマと基本方策	36	
5 - 3	ソフト事業の広域的展開	37	
			5 - 3 - 1 基本的方向 37
			5 - 3 - 2 具体的施策 37

6 資料編

1 基本コンセプトの策定

1-1 与条件の整理

1-1-1 計画地（南箕輪村）の現況

(1) 位置と自然

長野県の南部・伊那谷のやや北寄りに位置する当村は、東に南アルプス、西に中央アルプスを望み、伊那盆地の中でも最も広い田園地帯を持つ村です。当村は、天竜川河岸段丘に広がる本村地域と飛地の山岳地帯によって構成されており、計画地は、本村地域の西部に位置しています。

本村は、中央アルプスと南アルプスに挟まれている盆地のため、内陸性の準高冷地という気候特性を持っています。すなわち、年間を通して比較的雨が少なく、気温の日格差（寒暖差）が大きく、風向きは南北に長い伊那谷の地形的条件から、年間を通じて南北風が多くなっています。積雪は少なめ、年間日照時間は多めと、営農に適した気候に恵まれています。

長野県上伊那郡南箕輪村

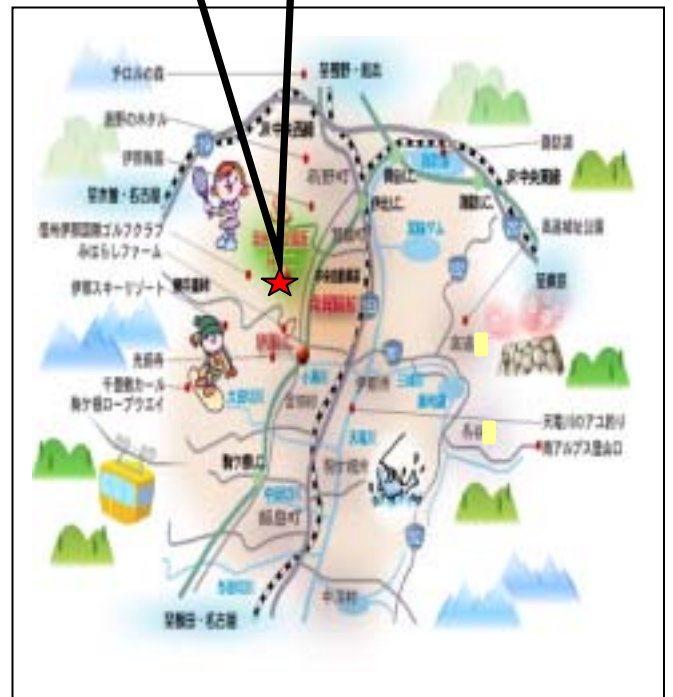
【役場位置】東経 137° 58' 29"

北緯 35° 52' 22"

海拔 695.4m

信州大芝高原

海拔 780～840m

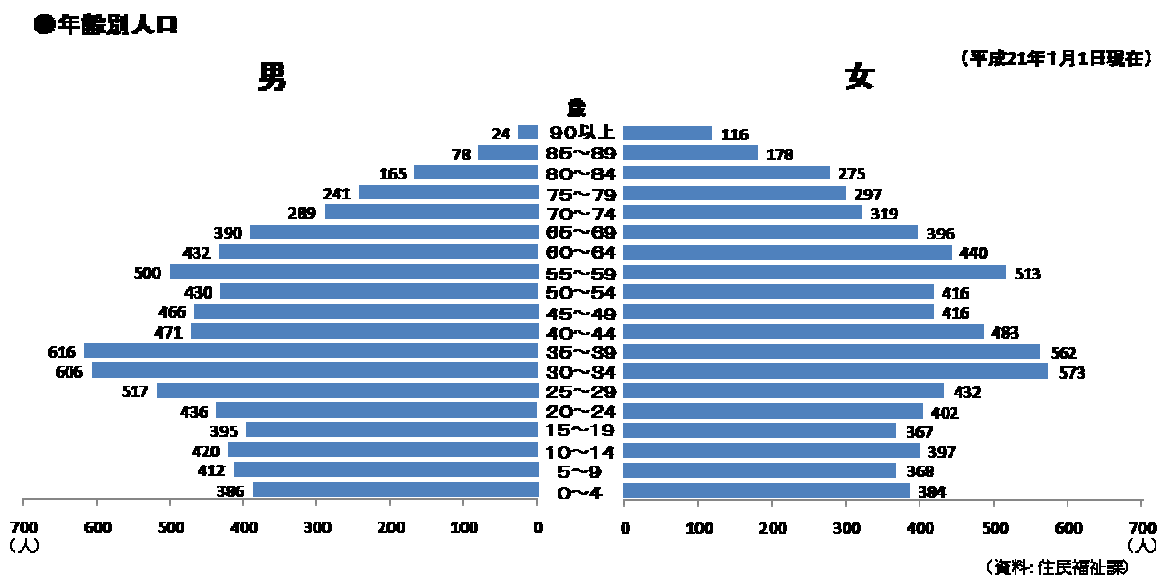


(2) 社会構造

本村の歴史は古く、神子柴遺跡をはじめ先土器時代の遺跡や縄文～弥生時代の遺跡が発見されており、当地域が古くから人間の居住環境として恵まれていたことがわかります。

明治8年(1875年)、久保村、大泉村、北殿村、南殿村、田畑村、神子柴村が合併して筑摩郡南箕輪村が誕生し、久保村から塩ノ井、沢尻が分離して、新たに戦後の開拓により北原区、南原区、大芝区や村政100周年記念の昭和50年(1975年)に中込区を加え、現在に至っています。

本村は、数年前までは著しい人口増加を続け、特に年少人口、生産年齢の人口比率の高い「若い村」となりました。この人口増は、伊那市のベットタウン的要素、中央自動車道等交通基盤の整備が進んでいること、農業開発や工業立地の促進、住宅や教育・福祉基盤の整備の順調な推移等、内外の環境整備が上手に融和した結果と考えられます。現在はほぼ横ばい状態です。



人口動態の推移

年次	世帯数 (世帯)	人口(人)			一世帯当り (人)	人口密度 (人/㎡)
		総数	男	女		
昭和10年	881	4,420	2,228	2,192	5.0	108.5
15年	869	4,466	2,228	2,238	5.0	109.6
20年	1,105	6,150	3,042	3,108	5.6	150.9
25年	1,197	6,360	3,165	3,195	5.3	156.1
30年	1,236	6,248	3,122	3,126	5.1	153.3
35年	1,272	6,043	2,989	3,054	4.8	148.3
40年	1,361	6,146	3,028	3,118	4.5	150.8
45年	1,568	6,660	3,329	3,331	4.2	163.4
50年	2,048	7,676	3,820	3,856	3.7	188.4
55年	2,447	8,877	4,377	4,500	3.6	217.8
60年	2,847	9,910	4,963	4,947	3.5	243.2
平成2年	3,290	10,666	5,339	5,327	3.2	260.8
7年	4,069	12,133	6,054	6,079	3.0	296.7
12年	4,835	13,404	6,672	6,730	2.8	327.7
17年	5,026	13,620	6,799	6,821	2.71	333.0

(資料: 国勢調査)

(3) 長野県子ども未来センター（仮称）事業の計画中止

今改定前の本計画の中で、ふれあい交流エリアの核となる施設として期待されていた長野県事業の子ども未来センター（仮称）は、工事中断、計画見直し、事業凍結を経て、平成 15 年 4 月本計画地での事業が中止されることとなりました。

子ども未来センター（仮称）事業の当初計画では、年間 36 万人の入場者が見込まれていたことから、今改定前の本計画では、これに配慮した施設整備の計画がなされており、不測の事態であったため実施済みの各事業においては規模、実施時期等に相当な見込み違いを生じる結果となりました。

事業中止後の建設予定地については、立木等をもとどおりにすることが困難であるため、広葉樹を主体とする新たな公園施設化の形で原状回復が行われました。

子ども未来センター（仮称）事業中止にいたる主な経過

年 月	事 項
平成 11 年 12 月	建設地を大芝高原とすることが決定される。
平成 12 年 8 月	造成工事着手
平成 12 年 10 月	田中康夫氏が知事に就任し、事業の見直しを表明。工事中断
平成 13 年 4 月	「有識者会議」が設置され、見直し作業に着手
平成 14 年 3 月	新たな基本構想決定
平成 14 年 5 月	実行委員会が設置され、実施計画案の検討が始まる。
平成 14 年 11 月	財政難を理由に事業中断を発表。実行委員会解散
平成 15 年 2 月	村民アンケートの結果等に基づき事業中止を県に求める。
平成 15 年 4 月	大芝高原における事業の中止が正式決定される。
平成 15 年 6 月	新たな大芝開発等審議会が設置される。
平成 15 年 7 月	原状回復についての意見募集
平成 15 年 8 月	村長名で県知事あてに原状回復を求める文書
平成 15 年 9 月	県知事名で村長あてに村要望に対する回答及び原状回復案 3 案提案
	村議会全員協議会において、3 案のうち 1 案を基本に了承
	村長名で県知事あて文書協議
平成 16 年 6 月	原状回復工事 着工
平成 17 年 5 月	原状回復工事 竣工
平成 17 年 6 月	当該地を「大芝高原多目的広場」として一般開放



当初計画の子ども未来センター（仮称）



原状回復工事竣工図

1-1-2 上位計画について

(1) 長野県の計画

現在、長野県では「“活力と安心” 人・暮らし・自然が輝く信州」を基本目標とする『長野県中期総合計画』（平成 20 年度～平成 24 年度）が進行しています。

『長野県中期総合計画』においては、県のめざす姿として、次の 5 項目を掲げています。

- ・ 「豊かな自然と共に生きる長野県」
- ・ 「力強い産業が支える活力あふれる長野県」
- ・ 「安全・安心な暮らしをつくる長野県」
- ・ 「未来を切り拓く人を育む長野県」
- ・ 「市町村が主役の人が輝き地域が輝く長野県」

また、計画地（南箕輪村）の属する上伊那地域は、“豊かな自然と調和する産業 未来へつなぐ安心・ふれあいのまち” とされ、次のような施策の展開を目指しています。

- ・ 「豊かな自然と調和した多彩な産業の振興」
- ・ 「健康でいきいきと暮らせる生活環境づくり」
- ・ 「広がりつつながりのある地域づくり・人づくり」

広大な森林が広がる信州大芝高原の一面を成す大芝公園は、従来から上伊那をはじめ広域的にスポーツと憩いの公園として親しまれてきました。平成 9 年には温泉が湧出し、大芝荘にて提供を開始、さらに平成 14 年度からは日帰り温泉施設の営業を開始しています。また、平成 18 年には森林セラピーロードの認定を受け、豊かな森林資源を活用した自然とのふれあいの場、癒しの空間づくりを進めてきています。

本計画地で進めようとしている公園部分の整備と森林部分の整備による信州大芝高原の全体的機能向上は、『長野県中期総合計画』で上伊那地域が目指す「広域観光や滞在型観光の推進など、自然環境や歴史などの地域資源を活用した観光の振興」に合致しており、地域開発の全体潮流の方向性に準拠しているものと考えられます。



(2) 南箕輪村の計画（第四次総合計画）

本村のむらづくりにおいては、現在『第四次総合計画』（基本構想・平成 18 年～平成 27 年）が始まっており、まずは前期基本計画（平成 18 年～平成 22 年）が進行中です。平成 27 年度の目標人口は 14,700 人（平成 12 年の約 110%）、「みんなで創ろう住みよい南箕輪 ～人・自然・協働～」が目指すところです。

また、教育・文化、健康・福祉、環境や生活、産業といった基幹となる施策を実現するために、戦略的かつ分野横断的な“ずく出しプロジェクト”が設定されています。

プロジェクトは、以下の5つの構想からなっており、

- ・ 子どもすすくプロジェクト
- ・ 村民いきいきプロジェクト
- ・ 地域コミュニティ再生プロジェクト
- ・ 自然環境プロジェクト
- ・ 「南箕輪ブランド」創造プロジェクト

計画地（信州大芝高原）の整備は、ずく出しプロジェクトでは、2番目、4番目、そして5番目の中で触れられています。村民いきいきプロジェクトでは、「心のケア（大芝の森のセラピーロードを利用し、ウォーキング等することで、心の癒し効果を図っていく。）」、自然環境プロジェクトでは、「癒しの森としての森林整備・憩いの場や、健康づくりの場としての整備、充実（癒しの場、憩いの場、健康づくりの場として、大芝高原全体が活用できるメニューづくりや、森林を案内できるスタッフの育成を図る。また、村の貴重な財産として、末永く守り育てる意識の高揚を図る。）」、「南箕輪ブランド」創造プロジェクトでは、「大芝高原周辺の有効活用（大芝高原周辺を観光・スポーツ・健康・グリーンツーリズム・ヘルスツーリズム等幅広く通年、有効利用ができる場所にする。また、大芝高原に村民や観光客がリピートで訪れるよう企画を立案する。）」が目指されています。

1-1-3 本計画の目的と位置付け

本計画は、前記上位の計画を受け、温泉の積極的かつ効率的な活用を図るなど、実現性が高く、事業性が確認されるような信州大芝高原の利用計画を構築することにあります。

この計画は、まさに今後の地域づくりの方向性を指し示す羅針盤の役割を担うものとなります。本来、生活、社会、経済活動などは人々の活動が原点となり、その活動が活発になることにより地域振興が図られます。そして、それらの活動を支えるものとして交流基盤が在り、この基盤整備が進むことによって、人々の活動＝交流が促進されます。つまり、人の活動など（ソフト事業）と交流基盤（ハード事業）の関係は、ソフト事業の展開により必要なハード事業が決定されることが望ましい形態といえます。反面、基盤の未整備の地域や経済状況から、ハード事業を先行させて地域振興を促進させることもあります。

本計画では、成熟した地域社会、流動的な社会・経済情勢、多様化、高度化した住民ニーズなどを考慮し、前者を選択し、本村として特色のある独自性に富んだ地域づくりに役立つ、計画づくりを進めることとします。

一方で、社会・経済は、インターネットの急激な進展（IT革命・・・第三次産業革命ともいわれている。）に代表されるように、ボーダレスな時代へと突入しています。市町村境、国境は歴然と存在していますが、生活や経済、特に情報化は、その境を意識しない段階まで急激に進化を遂げています。このことは、地域の独自性を大切にしながら、閉塞された地域にこだわることなく、積極的に交流・連携活動（広域的な人の活動）が行えるような環境整備が必要なことを示唆しています。そこで、本計画では、既に取り組みが始まっている住民参加を更に促進し、村の独自性と住民の和を実現する場所（既存施設も含めた交流拠点基盤施設）や交通、供給・処理、情報通信などの各種ネットワーク基盤を整備し、この施設を中心とした公園部分を、より広域的に、より異世代間で、気軽に交流・連携活動ができるような「ふれあい交流の場」として開放していくものとします。また、森林部分においても、保全のための整備を進める中で、公園部分との連携により「自然とのふれあいの場」として総合的開放を進めるものとします。

1-2 計画地の現況

1-2-1 計画地の位置と概況

- 計画地は、本村の西部、中央自動車道・伊那インターから北へ約 3.5km、JR 飯田線・北殿駅から約 5 km の大泉川扇状地に位置しています。標高は 780~840m、標高差は 60m/1200m (100 分の 5) のなだらかな丘陵地です。計画地は、都市公園区域(大芝公園)と森林区域によって構成されています。
- 都市公園区域の面積 51.6ha、森林区域 53ha の計 104.6ha が計画対象地です。
- 計画地の西側及び南側には、信州伊那国際ゴルフクラブが隣接し、本村でも際立った緑地帯を形成しています。
- 信州大芝高原には、村民および村外からの観光客のために、次のようなスポーツ、レクリエーション施設が稼動しています。

総合運動場／プール(屋外)／野球場／テニスコート／大芝屋内運動場／オートキャンプ場／大泉川・親水公園／マレットゴルフコース／アスレチックコース／大芝湖(愛の鐘)／セラピーロード／多目的広場／ふれあい交流センター「大芝の湯」／森の研修コテージ／大芝荘(宿泊施設)／大芝高原味工房／研修センター／フォレスト大芝(こども体験研修施設)／足湯

- 利用計画は、これら既存施設、森林を含めた、地区全体の活性化計画として考えられることが求められています。



1-2-2 計画地の特性

○ 都市公園区域

村民のスポーツ・レクリエーション区域として、豊かな自然の中に前記のような施設を有していますが、グレーゾーンが長く、ふれあい交流センターなどの一部施設を除いては、年間の稼働率を高めることが課題となっています。

○ 森林区域

明治末期の学校林から始まった植林は戦後も引き継がれ、現在では豊かな森が現出しています。見事な平地林は、すぐれた自然環境としてその存在も大きいところです。

この中の「信州大芝高原みんなの森」は、林野庁などが構成する森林セラピー実行委員会から平成18年4月、癒し効果の科学的裏づけとなる「森林セラピーロード」に認定されました。基本特性としては、ウォーキングや森林浴が楽しめる、森の中にはアカマツやヒノキが多数立ち並び、サクラ・カエデなどの広葉樹や多数の山野草が見られる、ウォーキングロードは山砂やウッドチップで舗装されているので車椅子でも散策が楽しめる、といった点があげられます。

みんなの森ウォーキングロード沿いの約70種類の樹木には樹名板を設置しており、四季折々の草木を観察する森林学習の場として活用できます。カブトムシやクワガタなどの甲虫類やチョウ類、キツネ、リスなどの動物や小鳥も数多く生息しており、バードウォッチングも可能となっています。

1-2-3 アクセス

(1) 道路

村内のいずれの地域からも車で約10分程度で到達することができます。

課題は、県内及び県外からのアクセスですが、中央道・伊那インターから約5分という恵まれた立地にあるため、自家用車等の誘導表示等で十分アプローチできます。また、南箕輪村巡回バス（まっくんバス）が平日1日8便伊那インター前に停車しており、高速バス利用者の計画地へのアクセスとして利用できます。ただし、休日については巡回バスが運休となるため、高速バス利用者はタクシーを利用する以外に計画地に到達する手段がなく、不便です。

主要都市から計画地までの距離及び所要時間は次のとおりです。

	主要地点	主なルート	距離(km)	所要時間
県内	飯田市	飯田 I C ————— 伊那 I C	49	38 分
	岡谷市	岡谷 I C ——— 岡谷 J C T ——— 伊那 I C	30.2	23 分
	諏訪市	諏訪 I C ————— 伊那 I C	36.6	27 分
	松本市	松本 I C ——— 岡谷 J C T ——— 伊那 I C	52.3	37 分
	長野市	長野 I C ——— 岡谷 J C T ——— 伊那 I C	108.3	1 時間 20 分
県外	甲府市	甲府昭和 I C ————— 伊那 I C	95.4	1 時間 13 分
	東京都	高井戸 I C ————— 伊那 I C	209.8	2 時間 41 分
	横浜市	国道 16 号 — 八王子 I C — 伊那 I C	226	4 時間 19 分
	名古屋市	①名古屋 I C — 小牧 J C T ——— 伊那 I C	155.4	1 時間 58 分
		②名古屋 I C — 小牧 J C T — 中津川 I C — 国道 19 号 — 伊那木曾連絡道路 — 伊那西部広域農道	153.8	2 時間 32 分
大阪市	①吹田 I C ——— 小牧 J C T ——— 伊那 I C	317.2	4 時間 9 分	
	②吹田 I C — 小牧 J C T — 中津川 I C — 国道 19 号 — 伊那木曾連絡道路 — 伊那西部広域農道	315.6	4 時間 43 分	

(2) 鉄道

計画地に最も近い駅は、JR 飯田線北殿駅となります。北殿駅から計画地までは約5km あるので、シャトルバス等のアクセス手段が必要となります。岡谷(辰野)——天竜峡間が1日平均22本程度と決して多くはないですが、県内を南北に結ぶ交通機関としては、貴重なアクセス手段であり、北殿駅から計画地へのアプローチ手段を用意することによって、従来以上の利用客を期待することができます。

また、地域のターミナル駅である伊那市の伊那市駅や伊那北駅からのシャトルバスや、伊那市、箕輪町と接続する巡回バスなどの交通インフラ整備も考慮する必要があります。

1-2-4 温泉

(1) 温泉の特性

計画地の北東角、大泉川の隣接地(字高根2362番地1)に湧出した温泉(源泉名「大芝高原温泉」)は、分析によれば、弱アルカリ性の単純温泉で、泉温は43.7℃、1分間の湧出量は3000ℓ/分となっています。全国約25,000本の源泉の平均湧出量約1000ℓ(利用源泉は約1500ℓ)に比べると、約3倍の湧出量となります。また、炭酸が多く、温泉の効用としては、美容、リウマチ、胃腸病、神経痛に効用があるとされています。

(2) 利用状況

現在、大芝高原温泉はふれあい交流センター「大芝の湯」、「ふれあいプラザ」、大芝荘大浴場(日帰り利用も可)、温泉スタンド及び野沢菜漬込みの時期には「お菜洗い」で利用しています。また、平成20年度には「足湯」が新設され利用されています。次に各施設の利用状況を示します。

ふれあい交流センター「大芝の湯」

年度別利用状況

年度	利用者数(人)
16	275,846
17	300,435
18	307,662
19	307,604
20	304,323

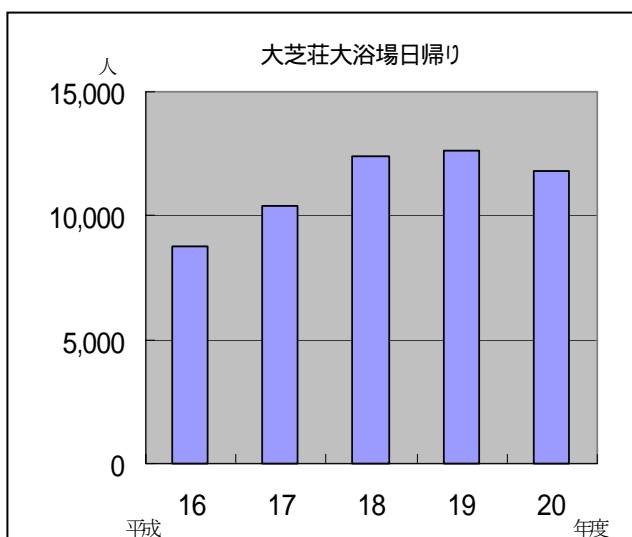
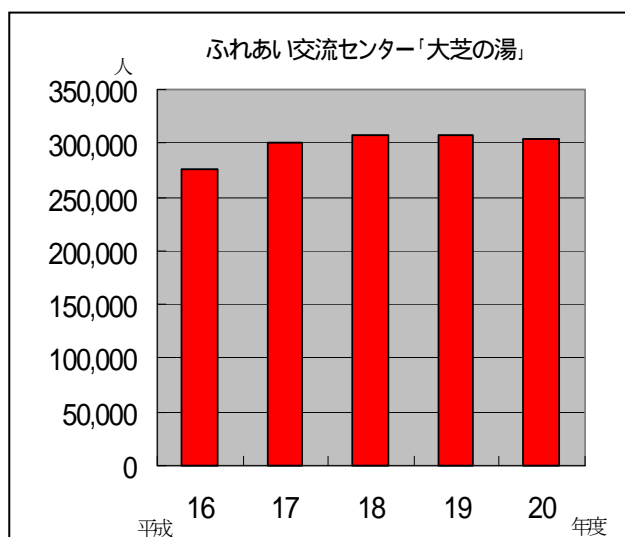
(資料：南箕輪村開発公社)

大芝荘大浴場(日帰り利用)

年度別利用状況

年度	利用者数(人)
16	8,795
17	10,374
18	12,428
19	12,621
20	11,835

(資料：南箕輪村開発公社)



1-2-5 観光

- 県観光統計に表れた伊那谷北部の観光拠点は、次表に見るとおり 30 か所あります。このうち、年間 10 万人を超える利用者（延人数・平成 20 年）のあった拠点は 13 か所で、計画地である信州大芝高原は、475,400 人で第 2 位にランクされています。
- ここ数年の日本各地の観光入込数は、長期的な平成不況の影響もあって、軒並み前年比減を記録しています。また、世界同時不況の影響もあってか、平成 20 年は上伊那地域全体でも減少している状況であり、計画地においても観光入込数は 4 % 程度減少しています。
- 信州大芝高原の県外利用客比は、96%（内）：4%（外）、日帰り・宿泊比は、92%：8%となっています。
- 大芝荘の宿泊及びレストラン（パル大芝）、大芝の湯の利用は、年間を通じて平均した利用がありますが、マレットゴルフ場などのスポーツ施設については 7～8 月の利用が突出しており、一部施設が閉鎖となる冬場では利用がほとんどありません。
- 森の研修コテージを除き冬場は閉場するため、オートキャンプ場及び一般キャンプ場も上と同様、7～8 月の利用が極めて多くなっています。
- 計画地には、前述のようにマレットゴルフ場、大芝の湯、オートキャンプ場等、多種多様な観光施設があり、年間 40 万人規模の利用がありますが、グレイシーズンをできるだけ無くすことが課題となっています。
- 平成 20 年度に全面改築した味工房を中心に、さらなる集客・リピーターの確保を図ることができるとが今後の課題です。

伊那谷北ブロック・観光客入込数（平成 19～20 年）

（単位：百人、千円）

観光地	年	利用者延数		県内外別		日帰り・宿泊別		消費額	
		合計	増減数/前年比	県内	県外	日帰り客	延宿泊客	合計	増減額
羽 広	20	4,089	151	2,484	1,605	3,757	332	946,542	381,602
	19	3,938	103.8	2,368	1,570	3,499	310	564,940	-3,415
伊那西部高原	20	2,915	-150	1,795	1,120	2,745	170	423,594	-43,842
	19	3,065	95.1	1,873	1,192	2,875	190	467,436	-6,963
高遠城址公園	20	4,144	-121	1,449	2,695	3,880	264	742,160	-24,290
	19	4,265	97.2	1,672	2,593	3,989	276	766,450	-11,630
高遠温泉さくらの湯	20	1,096	-104	877	219	1,096	0	109,600	-10,400
	19	1,200	91.3	959	241	1,200	0	120,000	-1,400
入笠山	20	1,127	-45	225	902	1,081	46	118,850	-6,660
	19	1,172	96.2	234	938	1,118	54	125,510	4,960
遠照寺及び山室溪谷	20	88	0	48	40	88	0	8,410	0
	19	88	100.0	48	40	88	0	8,410	0
千代田湖・晴ヶ峰 高遠少年自然の家	20	1,095	-59	522	573	90	1,005	149,700	-8,780
	19	1,154	94.9	585	569	77	1,077	158,480	15,380
鹿嶺高原	20	137	3	56	81	95	42	56,860	1,050
	19	134	102.2	55	79	96	38	55,810	6,734
美和湖	20	2,204	186	788	1,416	1,522	682	764,574	52,876
	19	2,018	109.2	613	1,405	1,332	686	711,698	36,483
南アルプス北部	20	837	-26	190	647	350	487	490,084	-14,806
	19	863	97.0	197	666	348	515	504,890	4,9736
中央アルプス駒ヶ岳 (駒ヶ根市)	20	2,562	-136	764	1,798	2,450	112	1,382,910	-73,060
	19	2,698	95.0	808	1,890	2,582	116	1,455,970	55,470
駒ヶ根高原 (駒ヶ根市)	20	5,891	-237	1,762	4,129	3,153	2,738	3,216,710	-186,020
	19	6,128	96.1	1,833	4,295	3,152	2,976	3,402,730	-245,035

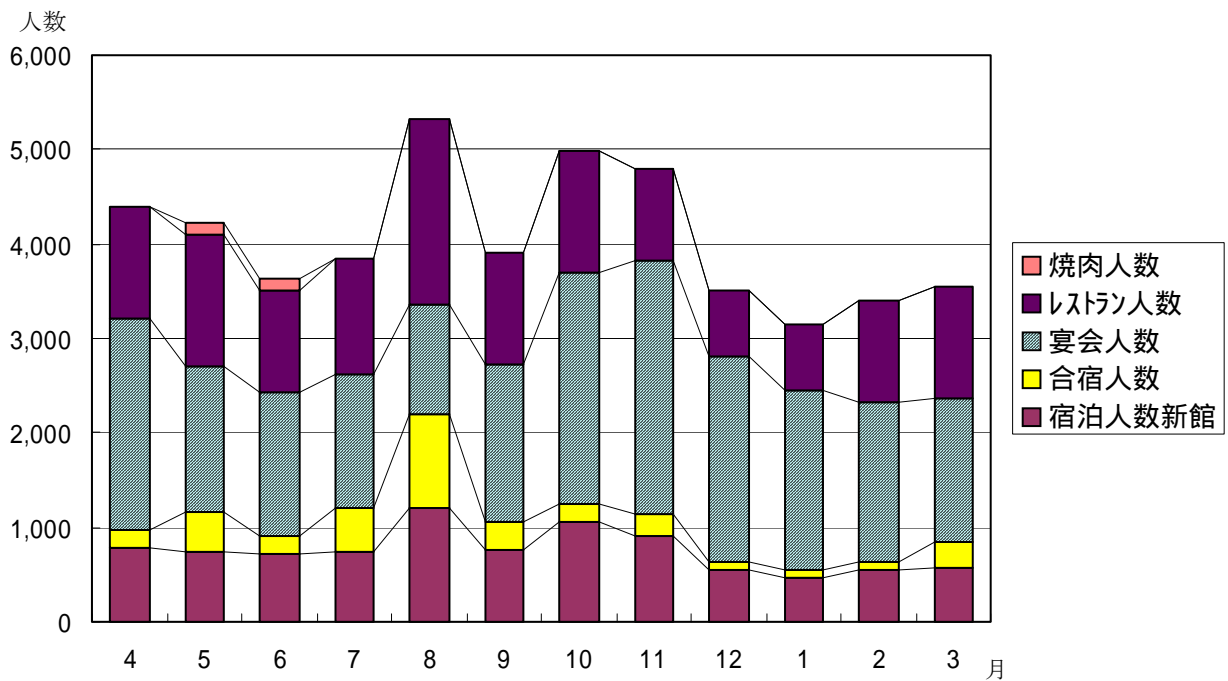
観 光 地	年	利用者延数		県 内 外 別		日帰り・宿泊別		消 費 額	
		合 計	増減数 /前年比	県 内	県 外	日帰り客	延宿泊客	合 計	増減額
光前寺	20	3,539	-10	1,056	2,483	3,539	0	176,950	-500
	19	3,549	99.7	1,061	2,488	3,549	0	177,450	-3,550
駒ヶ根 シルクミュージアム	20	308	48	87	221	232	76	77,100	7,500
	19	260	118.5	75	185	180	80	69,600	-180
枝垂栗自生地	20	321	-42	194	127	183	138	20,115	-4,835
	19	363	88.4	201	162	181	182	24,950	10,170
中央アルプス 横川溪谷	20	721	-64	559	162	633	88	129,521	-2,849
	19	785	91.8	607	178	683	102	132,370	-12,715
荒神山公園	20	1,340	-68	1,159	181	1,130	210	239,780	-14,620
	19	1,408	95.2	1,218	190	1,156	252	254,400	-20,750
萱野高原	20	81	-24	67	14	60	21	1,514	-295
	19	105	77.1	88	17	83	22	1,809	1,245
ながた自然公園	20	3,002	-23	2,584	418	2,608	394	429,424	-10,126
	19	3,025	99.2	2,616	409	2,667	358	439,550	-8,780
千人塚及び 与田切溪谷	20	601	-13	544	57	577	24	94,950	-5,150
	19	614	97.9	547	67	574	40	100,100	24,000
大芝高原	20	4,757	-201	4,556	198	4,372	382	409,600	-16,350
	19	4,955	95.9	4,769	186	4,559	396	425,950	10,450
権兵衛峠	20	93	0	48	45	93	0	0	0
	19	93	100.0	48	45	93	0	0	0
沢尻不動尊	20	127	0	127	0	127	0	3,620	0
	19	127	100.0	127	0	127	0	3,620	0
陣馬形山	20	163	-32	102	61	102	61	16,600	-21,750
	19	195	83.6	122	73	122	73	38,350	38,350
小渋峡	20	300	-86	160	140	160	140	73,400	-20,310
	19	386	77.7	208	178	208	178	93,710	17,560
ふれあいの里	20	863	114	668	195	668	195	233,640	4,850
	19	749	115.2	531	218	538	211	228,790	90,500
伊那峡	20	66	0	24	42	24	42	28,500	0
	19	66	100.0	24	42	24	42	28,500	5,300
駒ヶ根高原 (宮田村)	20	981	-88	763	218	763	218	425,100	-52,900
	19	1,069	91.8	733	336	733	336	478,000	-9,400
宮田高原	20	11	11	2	9	2	9	680	680
	19	0	-	0	0	0	0	0	0
中央アルプス駒ヶ岳 (宮田村)	20	676	-16	476	200	476	200	323,960	-6,320
	19	692	97.7	508	184	508	184	330,280	37,290

(資料：「長野県観光地利用者統計調査」)

● 大芝荘の年間利用状況（平成 20 年度）

（単位：人）

月	宿泊（新館）	合 宿	宴 会	レストラン	焼肉ハウス	利用者総数
4	786	183	2,247	1,176	0	4,392
5	736	416	1,551	1,403	109	4,215
6	715	198	1,515	1,076	124	3,628
7	742	470	1,399	1,240	0	3,851
8	1,199	1,003	1,151	1,970	0	5,323
9	760	295	1,662	1,199	0	3,916
10	1,052	205	2,443	1,282	0	4,982
11	911	222	2,684	982	—	4,799
12	553	78	2,182	703	—	3,516
1	457	83	1,915	686	—	3,141
2	548	79	1,694	1,084	—	3,405
3	576	268	1,513	1,187	—	3,544
計	9,035	3,500	21,956	13,988	233	48,712

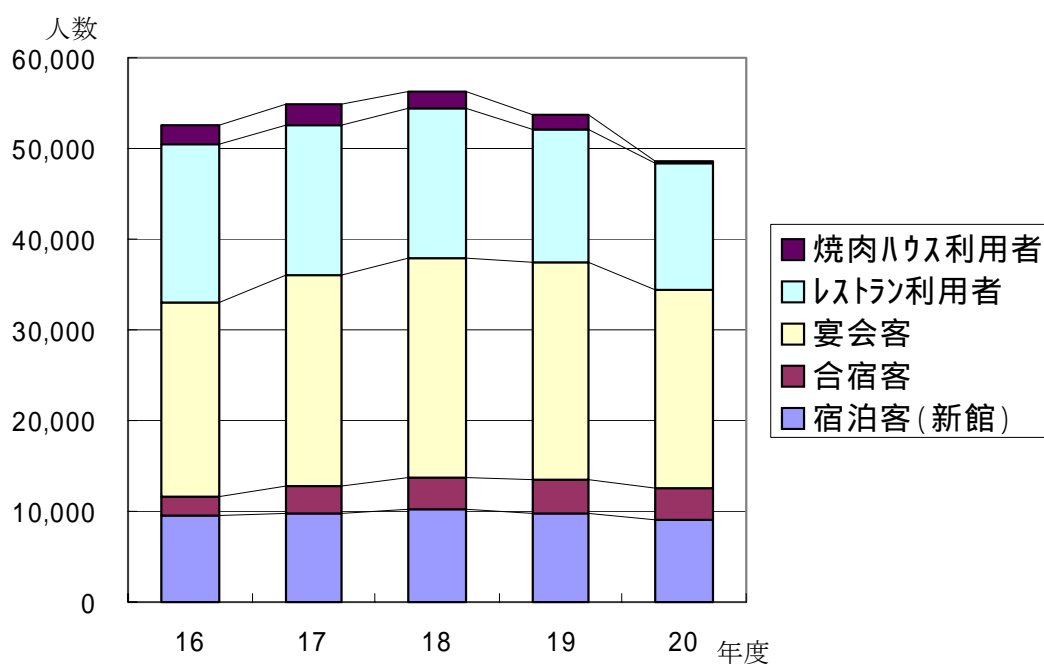


大芝荘利用状況の経年変化

(単位：人)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
宿 泊 (新館)	9,463	9,752	10,195	9,687	9,035
合 宿	2,155	3,054	3,607	3,784	3,500
宴 会	21,352	23,222	24,152	23,990	21,956
レストラン	17,402	16,615	16,419	14,618	13,988
焼肉ハウス	2,230	2,174	1,839	1,732	233
利用者総数	52,602	54,817	56,212	53,811	48,712

(資料：南箕輪村開発公社)



キャンプ場の利用状況 (年度別)

(単位：件)

年度	オートキャンプ場				フリーキャンプ場	
	テントサイト利用件数 (件)	テントサイト利用人数 (人)	バンガロー利用件数 (件)	バンガロー利用人数 (人)	利用件数 (件)	利用人数 (人)
16	893	3,811	199	1,134	229	3,151
17	911	3,681	195	1,000	229	2,967
18	748	2,982	171	790	264	3,593
19	762	3,056	184	924	244	3,273
20	733	2,883	175	836	241	3,025

注：12月から2月の間はオフシーズンとして閉鎖

(資料：南箕輪村開発公社)

キャンプ場の県内・県外別利用状況（年度別）

（単位：件）

年 度	オートキャンプ場		フリーキャンプ場		合 計		
	県 内	県 外	県 内	県 外	県 内	県 外	総 計
16	233	990	214	15	447	1,005	1,452
17	256	848	211	18	467	866	1,333
18	288	631	247	17	535	648	1,183
19	257	939	231	13	488	952	1,440
20	262	650	232	9	494	659	1,153

注：12月から2月の間はオフシーズンとして閉鎖

（資料：南箕輪村開発公社）

森の研修コテージの利用状況

（単位：人）

年 度	16	17	18	19	20
利 用 者 数	2,750	2,970	2,970	3,077	2,955

（資料：南箕輪村開発公社）

マレットゴルフ場の利用状況

（単位：人）

年 度	16	17	18	19	20
利 用 者 数	32,060	29,873	30,268	29,972	26,612

（資料：南箕輪村開発公社）

1-3 基本コンセプトの設定

1-3-1 機能の整理

① 本計画に期待される役割

利用計画のコンセプト設定に当たっては、本計画に求められる二つの方向性、すなわち、村民のための空間として公園施設や森林を充実化する方向と、観光・交流拠点として外部（県内・県外）に開かれた施設としての有りかたを同時に満足させられるような計画づくりが求められています。施設整備を含めた利用計画は、こうした広範な要請を見据え続ける長期的な視野が必要になります。

こうしたことから、第一に、計画地に対して村内（村民）がどのような期待を抱いているかを見えます。平成9年10月に行われた「信州大芝高原の整備方向に関する村民アンケート」では、おおよそ次のような結果が出ています。

- 信州大芝高原のハードイメージ ⇒ 美しい豊かな自然環境
- 信州大芝高原のソフトイメージ ⇒ 休養・憩い、健康のイメージ。高原というより公園のイメージが強い
- 大芝荘のイメージ ⇒ 今後の改善の必要なマイナスイメージ
- 信州大芝高原のハード再整備の方向 ⇒ スポーツ施設の改良、改善と増設及び公園施設の改良、増設
- 信州大芝高原のソフト再整備の方向 ⇒ 公園施設の利用ソフトの充実
- 大芝荘の再整備の方向 ⇒ ハードの増設、ソフトの改良、改善
- 信州大芝高原南部の平地林 ⇒ 自然のままでの緑の保全と保存
- 温泉の活用法 ⇒ 大芝の湯を中心に、誘客力の高い温泉施設。イベントによるさらなる集客も必要

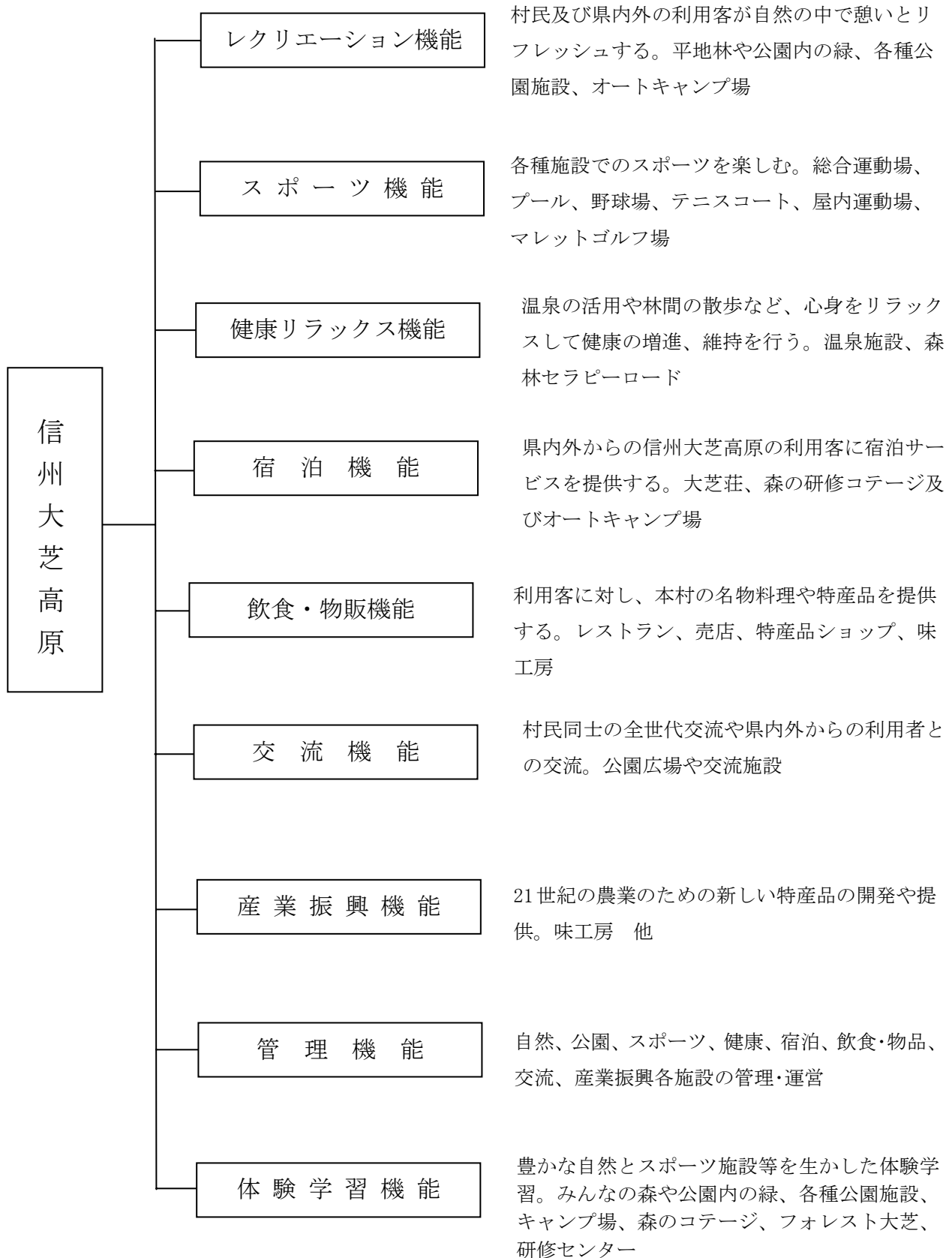
大芝公園の公園施設及び大芝荘に対しては、より良い改善、改良を希望する一方で、平地林については、現状の貴重な緑の保全、保存、そして温泉については、信州大芝高原の目玉施設として、全国的な集客を考え、ユニークな施設づくりが望まれていることがわかります。

また、県子ども未来センター事業凍結に当り実施をした「子ども未来センター事業凍結に関する村民アンケート」の結果では、旧予定地への植栽を望む意見が多数あり、村民の大芝の「森」に対する愛着がうかがえます。

村はこれまで、こうした住民ニーズを盛り込んだ既定の「信州大芝高原総合利用計画」に基づき、温泉活用施設の整備や信州大芝高原みんなの森整備などに取り組んできましたが、今後とも、こうした村民の意向を踏まえた計画づくり、施設整備を行なっていかなければなりません。

次に信州大芝高原の果たすべき機能をあらためて整理してみます。

② 構成機能図



1-3-2 基本コンセプトの確認

信州大芝高原の利用に当たっては、その根幹には村の基本構想及び基本計画があり、事業の展開に当たっては、この基本コンセプトを確認しておく必要があります。

基本構想（施策の大綱）

- I 心豊かな人づくりのむら
（子育て・教育・文化）
- II 互いに支えあう、健やかなむら
（健康・福祉）
- III 力を合わせ、未来を拓くむら
（自治・協働）
- IV 自然と共に、安心・快適に暮らせるむら
（生活・環境）
- V 活気に満ちたにぎわいのむら
（産業・交流）

ずく出しプロジェクト

1 子どもすくすくプロジェクト

村民いきいきプロジェクト

病気になるための取り組み

心のケア

（セラピーロードの利用による心の癒し効果）

3 地域コミュニティ再生プロジェクト

自然環境プロジェクト

森林：大芝高原の充実

癒しの森としての森林整備

憩いの場や健康づくりの場

（森林案内スタッフの育成、保全意識の高揚 等）

「南箕輪ブランド」創造プロジェクト

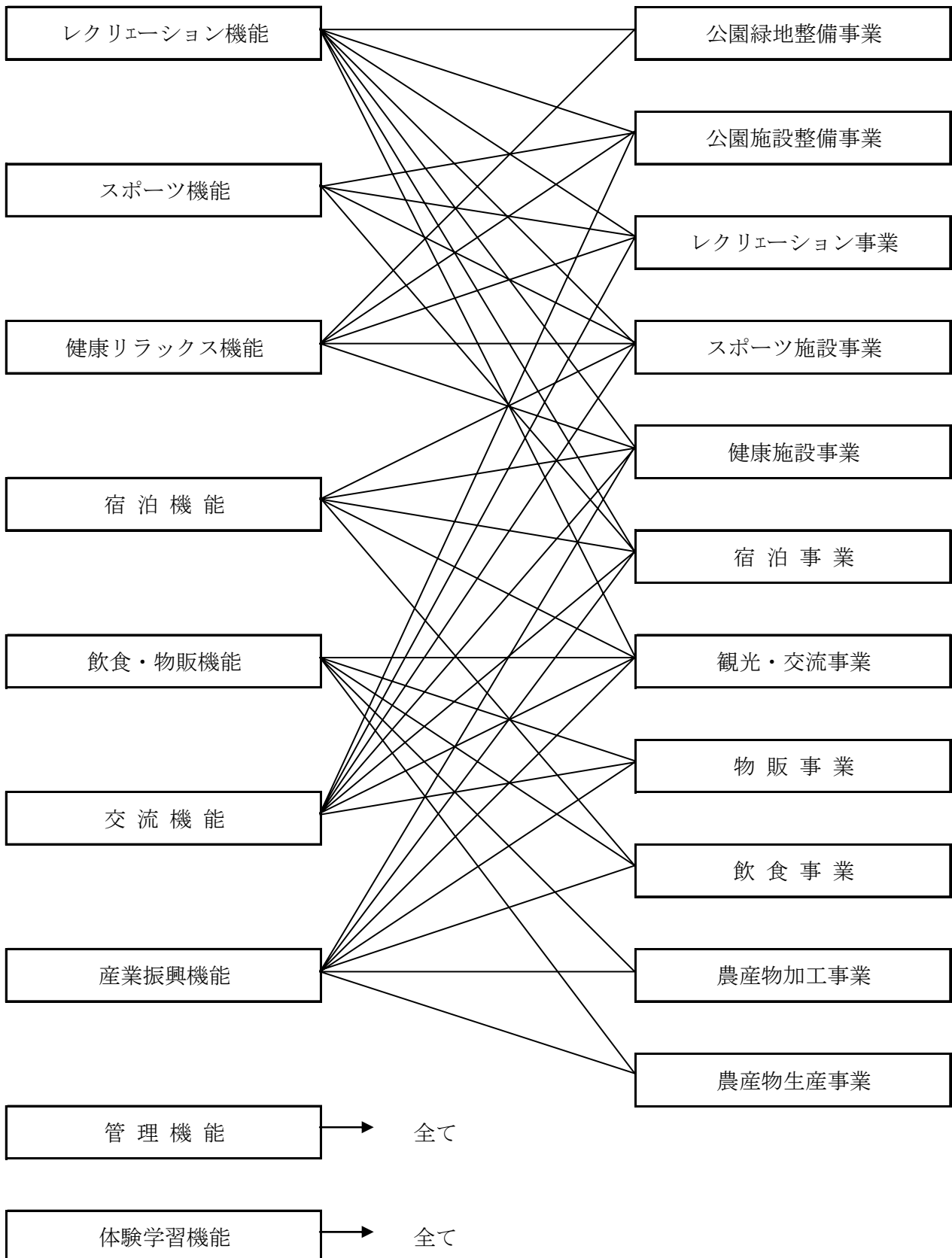
大芝高原ドリーム

大芝高原周辺の有効活用

（観光・スポーツ・健康・グリーンツーリズム・ヘルスツーリズム等通年利用型施設として整備し、またリピーターを増やすための企画立案）

1-4 各機能と事業の相関

信州大芝高原に期待される各種機能は、それぞれの将来的な事業展開の中で実現される必要があります。もとより、一つの機能により複数の事業が実現される場合やその逆のケースも十分考えられます。また、極めて公益性が優先される事業や、事業の運用によって利益を得ることができる事業など、事業の中にも様々な種類があります。事業の展開、あるいは計画地の利用計画に当たっては、これらの特性を加味しながら、投資コストの効率的な運用を図る必要があります。

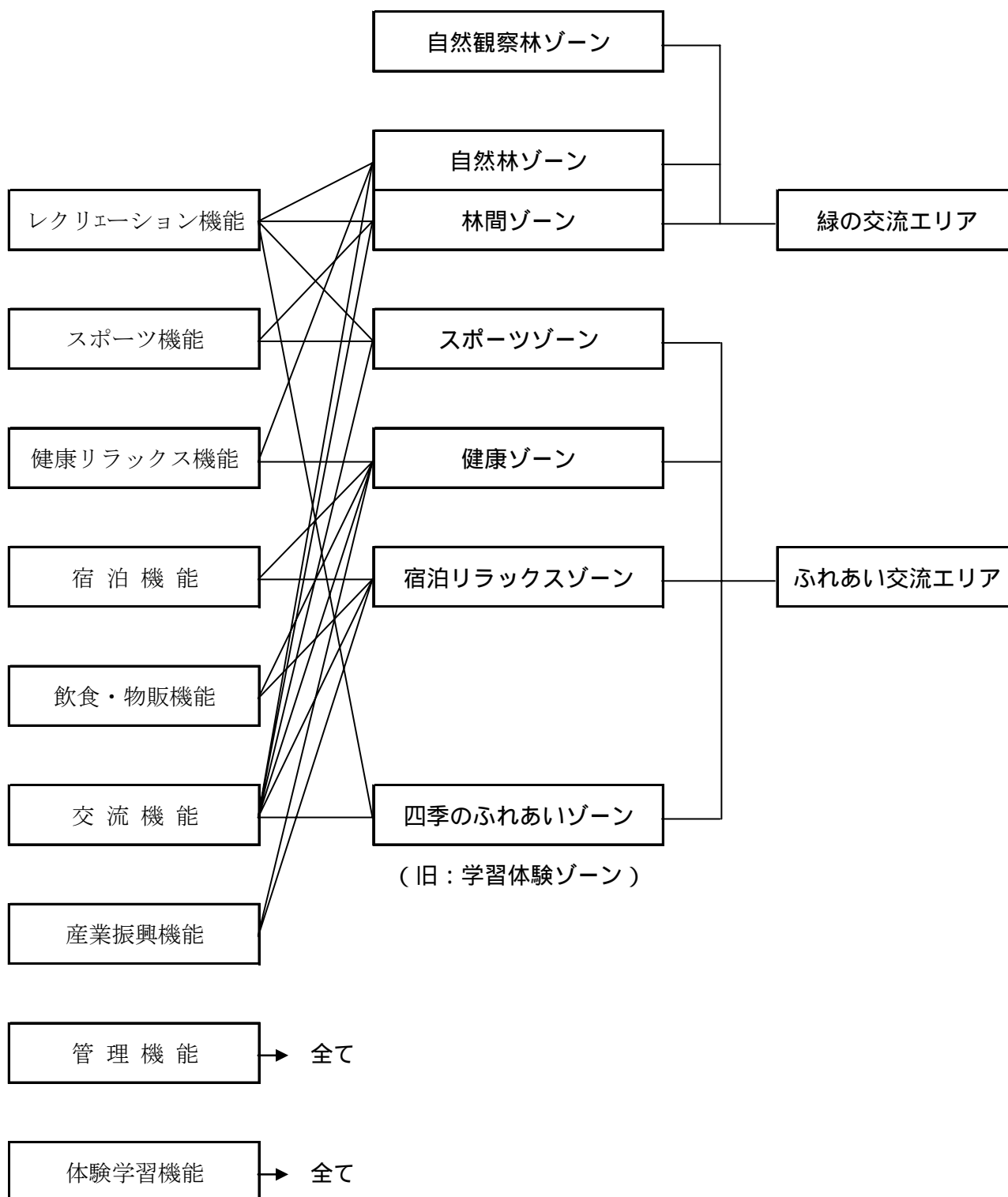


1-5 機能とゾーニング

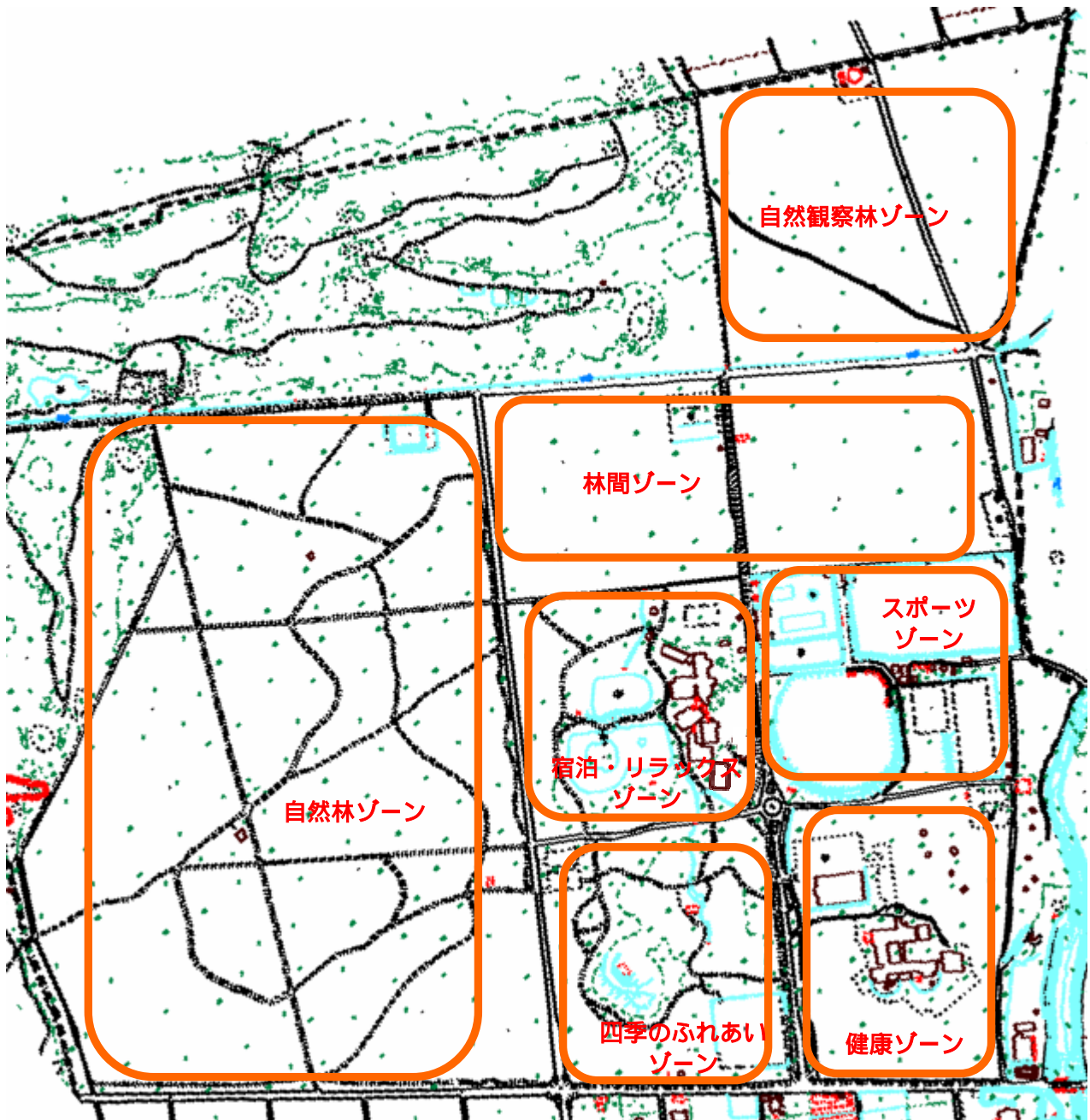
信州大芝高原のゾーニングは、基本的にはこれまでの計画を引き継ぎ、次のとおりとします。

ただし、県子ども未来センター（仮称）事業が中止となったことに伴い、原状回復により広葉樹主体の植栽が行われた旧「学習体験ゾーン」を「四季のふれあいゾーン」に変更します。

信州大芝高原の基本ゾーニング




ゾーニング地図





2 施設整備基本計画

2-1 既存主要施設の状況

2-1-1 自然林ゾーン

施設名	整備完了年度	施設の概要	
信州大芝高原みんなの森セラピーロード	H15	林望台 総合作業施設（赤松の小屋（公衆トイレ） 東屋（かたらい亭）	

2-1-2 林間ゾーン




施設名	整備完了年度	施設の概要	
マレットゴルフ場	—	58,450 m ² 赤松コース（18ホール、パー72） 桧コース（18ホール、パー72） 白樺コース（18ホール、パー72） 東屋 5棟	
アスレチックコース	S56	木製アスレチック 12か所	




2-1-3 スポーツゾーン

施設名	整備完了年度	施設の概要	
プール	H49	3面 50m（8コース）、25m（6コース）、幼児用 管理棟・更衣室 1棟 管理棟は、大芝（公園）管理事務所を兼ねる。	
テニスコート	S59	クレー 6面	
多目的運動施設	H20	多目的コート （テニスコート 3面、又は、ゲートボールコート 2面） 足つぼロード 東屋 1棟	
野球場	S52	両翼100m、センター123m 観覧席	

施設名	整備完了年度	施設の概要	
総合グラウンド (陸上競技場)	S48	夜間照明・バックネット完備 ソフトボール 2面 サッカー 2面	
フリーキャンプ場	—	オートキャンプ場参照	
焼肉ハウス	—	2棟	
更衣室 (野球場北)	S61	鉄骨平屋建 床面積 51.75 m ²	
器具庫	S61	鉄骨平屋建 床面積 64.59 m ²	
大芝高原まつり 用具倉庫	H6	鉄骨平屋建 床面積 31.13 m ²	



2-1-4 健康ゾーン

施設名	整備完了年度	施設の概要	
ふれあい交流センター 大芝の湯	H13	まつの湯、ひのきの湯、やすらぎの湯の3つの 浴場を中心とした交流施設	
ふれあいプラザ	H14	温泉活用の水中歩行浴を中心とした研修・運動 施設 鉄筋コンクリート造一部鉄骨 平屋建て 長尺 金属板葺き 水中運動室 トレーニングルーム ほか 延べ床面積 460.30 m ²	
森の研修コテージ	H13	宿泊しての研修等に利用できるコテージ群 (5棟) 5～6人用(床面積60 m ²) 4棟 10人用(床面積83 m ²) 1棟 居間、浴室、ベッド等の設備	

施設名	整備完了年度	施設の概要	
屋内運動場	S62	ゲートボール2面、テニスコート・バレーボールコートなら各3面が設置可能 建築面積 1,798.08 m ²	
オートキャンプ場	H4	バンガロー 4棟 テントサイト 31サイト 駐車スペース・かまど・野外卓付き 12月から翌年2月までは閉鎖 東屋 1棟 管理棟 1棟 炊事場	
親水公園	H5	キャンプファイヤーサークル	

2-1-5 宿泊・リラックスゾーン

施設名	整備完了年度	施設の概要	
大芝荘 <併設> レストランパル大芝 大芝荘日帰り温泉	H3	鉄骨2階建 延べ床面積 2,412.01 m ² 宿泊棟 (客室 14室、66名収容可)、 宴会棟、浴室棟、車庫、器具庫	
大芝高原味工房	H20	村の地場農産物の地産地消および特産品の開発を目的とし、「顔の見える安心した農産物および農畜産加工品」の販売を目指す。 木造平屋 延べ床面積 520.04 m ² 農産物加工室 (ジェラート・パン・みそ・漬物・おやき)、売店、軽食喫茶、コンコースデッキ、ウッドデッキ	
足湯	H20	足湯浴槽 (幅 90cm、深さ 25cm、長さ 1,092cm) 温泉循環ろ過加温方式	
子ども体験研修施設 「フォレスト大芝」	H16	木造2階建 延べ床面積 630.78 m ² 大会議室、ミーティング室、シャワールーム 洗濯室 (客室 6室、16名収容可能、合宿時は約 100名収容可)	
研修センター	S55 H8 増築 H18 増改築	延べ床面積 439.46 m ²	
古代人住居	S56 S61	S56 北高根遺跡 6号 S61 天白遺跡 1号住居址	

施設名	整備完了年度	施設の概要	
大芝湖	H58	湖岸遊具 13 種 大芝高原愛の鐘 (姉妹都市であった静岡県旧土肥町(現伊豆市土肥町)から送られた「恋人岬」の鐘と同じもの)等 東屋 2 棟	 

2-1-6 四季のふれあいゾーン

施設名	整備完了年度	施設の概要	
多目的広場	S62 H16 改修	22,800 m ² 東屋 1 棟 滑り台 1 基	
築山	S63 H16 改修	12,180 m ²	
水の広場	H16	東屋 1 棟	
野外ステージ	H5 H16 改修	屋根付(鉄骨・よし葺)	
小運動場	S53 H16 改修	敷地面積 6,683 m ²	

2-1-7 総合的施設その他

施設名		整備完了年度	施設の概要	
ト イ レ	小運動場西 トイレ	H2	非木造（コンクリートブロック造） 男性用 大便器1 小便器2 女性用 2	
	野球場北 トイレ	S61	非木造（コンクリートブロック造） 男性用 大便器2 小便器5 女性用 5 多目的トイレ 1	
	マレット ゴルフ場東 トイレ	H2	木造（ヒノキ造） 男性用 大便器1 小便器2 女性用 2	
	プール南 トイレ	H6	木造 男性用 大便器1 小便器3 女性用 3	
	大芝湖西南 トイレ	H2	非木造（コンクリートブロック造） 男性用 大便器1 小便器3 女性用 3 多目的トイレ 1	
	大芝湖東 トイレ	—	非木造 男性用 大便器1 小便器2 女性用 2	
	マレット ゴルフ場南 トイレ	H4	木造 男性用 大便器1 小便器1 女性用 1	
	オート キャンプ場内 トイレA (炊事棟)	H4	木造 男性用 大便器 小便器 女性用	
オート キャンプ場内 トイレB	H4	木造 男性用 大便器 小便器 女性用		

施設名		整備完了年度	施設の概要	
トイレ	大芝湖東 トイレ	H16	木造 多目的トイレ 1	
	焼き肉ハウス横 仮設トイレ	H16	仮設トイレ 男性用 大便器 小便器 女性用	
駐車場	大芝湖東 駐車場	—	44 台	
	屋内運動場西 駐車場	—	128 台	
	屋内運動場 入口前 駐車場	—	区画線なし、10 台程度駐車可	
	大芝の湯 駐車場	—	30 台	
	プール東 駐車場	—	127 台	
	オート キャンプ場内 駐車場	—	46 台	
	マレット ゴルフ場南 駐車場	—	92 台	
	マレット ゴルフ場北 駐車場	—	31 台	

施設名		整備完了年度	施設の概要	
駐 車 場	大芝荘駐車場	—	57台（玄関前、身体障がい者用2区画含む。）	
	味工房駐車場	—	51台	
	みんなの森障がい者用駐車場	—	3台	
	イベント時臨時駐車場	—	総合グラウンド 900台 小運動場 200台 村道113号線沿い 180台	
大芝高原温泉スタンド		H9	野球場南 温泉スタンド一式 野沢菜漬込みシーズンには「お菜洗い場」を併設	
大芝高原温泉（源泉）		H9	源泉・ポンプ設備一式	



2-2 最近の整備状況

改定前の「信州大芝高原総合利用計画」を策定した平成12年度以降の主な施設整備の状況は次表のとおりです。

大芝高原関連主要施設整備状況（平成12～20年度事業実施分）

施設名	事業年度	事業概要	総事業費 (千円)
中央園路	平成12～13年度	車道拡幅改良および北側歩道整備 全長380m	94,412
村道3134号線 (伊那西部広域農道)	平成12～14年度	歩道整備(西側)全長800m 交差点改良	138,568
公共下水道	平成12～13年度	管布設 全長2,854m マンホールポンプ 1か所	182,019
大芝高原味工房	平成13年度	旧大芝荘を改修し、加工室および売店に転用	49,970
ふれあい交流センター 「大芝の湯」	平成11～13年度	まつの湯、ひのきの湯、やすらぎの湯。森の研修コテージ5棟併設	914,151
ふれあいプラザ	平成14年度	水中歩行浴槽を持つ水中運動室、トレーニングルームほかの整備	119,390
信州大芝高原 みんなの森(県事業)	平成12～15年度	県の生活環境保全林整備事業により、林相改良、管理道、広場等を整備	221,000
子ども体験研修施設 「フォレスト大芝」	平成16年度	木造2階建 延床面積631㎡	170,492
多目的広場周辺 (原状回復工事)	平成16～17年度	園路、多目的広場、植栽、トイレ、せせらぎ、東屋 他	140,858
公園内放送設備更新	平成19年度	スピーカー78個 放送アンプ	17,276
大芝高原味工房	平成20年度	農産物加工施設、売店、軽食喫茶、コンコースデッキ、ウッドデッキ 木造平屋建 延床面積495.20㎡	159,580
足湯	平成20年度	浴槽 (幅90cm、深さ25cm、長さ1,092cm) 延床面積24.84㎡	8,000
入口誘導看板 及び総合案内看板	平成20年度	広域農道沿い誘導看板 3基 大芝高原入口看板 1基 公園施設総合案内板 2基	9,009
多目的運動施設	平成20年度	テニスコート3面又は、ゲートボールコート2面、照明設備4基 足つぼロード、東屋	30,219

2-3 全域にわたる施設計画

2-3-1 施設整備の課題

整備が必要な施設等の現況と課題は次表のとおりです。

整備が必要な施設等の現況と課題（全域）

現 況	課 題
歩道が設置されていない公園周辺道路がある。	周辺道路の整備
セラピーロード及び野球場周辺の駐車場が不足している。	既存駐車場を中心に、各施設等を利用しやすい駐車場の配置を図る。
多目的トイレの整備が不十分な箇所がある。 （キャンプ場方面）	既存トイレを含めたトイレの適正配置が必要。
マイカー利用を除き、広域的なアクセスが悪い。	高速交通網、鉄道などとのアクセスを良くし、利便性を向上する道路整備、交通手段の確保等が必要である。
公園内の案内表示の整備が不十分である。	公園内案内表示等の整備が必要
公園及びみんなの森内の各所に消火栓を設置しているが、大規模な森林火災などに対応するための施設、体制が十分整っていない。	防火施設及び防火体制の強化
中央園路には公共下水道が整備されているものの、公園内のトイレについて、公共下水道の整備がなされていない箇所がある。（合併浄化槽使用）	公共下水道管渠の整備検討

2-3-2 施設計画の方向性

- 今後の施設整備に当たっては、ソフト事業の展開により必要なハード事業が決定されることを基本として進めることとします。
- ふれあい交流エリアにおける大芝公園（都市公園）部分での新たな公園施設の整備、既存施設のリニューアルや社会基盤整備を、自然との調和に配慮しつつ進めます。
- 緑の交流エリアでは、大芝公園部分（林間ゾーン）の森と信州大芝高原みんなの森（自然林ゾーン）および自然観察林ゾーンの森の連続化を図り、自然とのふれあいの場として活用しながら、未来に返すことを念頭に整備します。→ 緑の連続性
- 駐車場の駐車需要の把握及び必要な整備を行います。
- 周辺の道路整備などの社会基盤整備を、広域的視野で計画的に推進します。

2-4 緑の交流エリアの施設計画

2-4-1 施設整備の課題

整備が必要な施設等の現況と課題は次表のとおりです。

整備が必要な施設等の現況と課題（みどりの交流エリア）

	現 況	課 題
自然林ゾーン	主として樹齢20～90年生のアカマツと10～50年生のヒノキの複層林。自然林ゾーンは県施行の生活環境保全林整備事業により整備された。	目的にあった森の管理が必要
	アカマツ、ヒノキ等の針葉樹林は、明治以降の植林活動によって経済林として誕生した経緯があるが、森林浴に適しており、セラピーロードを中心に活用されている。防犯面での対策は必要。	今後の維持管理
林間ゾーン	主として樹齢50～90年生の見事なアカマツ林である。林地の半分以上はマレットゴルフ場や林間アスレチックコースとして使用されているため、林の中を自由に動くまわれる魅力がある。	マレットゴルフ等は、大芝公園内でも人気の林間スポーツとなっており、森林（林床）保護との調整が必要である
	マレットゴルフ場等の林床は踏み固められており、アカマツ等の健康な生育への影響が懸念される。	
自然観察林ゾーン	林相、樹種、林床の状況等は自然林ゾーンと基本的に同じ。	自然との共生に配慮するため、不法投棄の防止が必要
	面積は13haとそう広くなく、しかも都市計画街路を隔てた森林である。	

2-4-2 施設計画の方向性

森の緑が人間の心身に及ぼす影響がますます明らかになってきている中で、これらの緑を保全・成熟させ、自然とのふれあいを楽しむ多目的時空間づくりを目指します。したがって、既存のアカマツ林、ヒノキ林を生かすとともに、広葉樹等を新たに植林するなどして複層林を形成し、長期的視野に立った森林形成、利用を図るものとします。また、適切な間伐の実施、北上を続ける松くい虫被害への対策、村民との協働による森林づくりを実施しながら、この緑空間（緑の連続性）と周辺空間との有機的連携による一体化を進め、自然の大切さとその自然と人間との関りを具現化し、持続可能な空間として未来に返していくとともに、緑の景観を楽しみながらエリア内を散策し、野鳥や昆虫、小動物とふれあい、心身の健康維持を図る時空間にも活用します。

自然林ゾーン

- 「森林セラピーロード」に認定された遊歩道を有しており、人々に癒しを与え続けてくれる場所として大切にし、手厚く整備、管理をしていきます。
- 生活環境保全林であり、整備や管理、活用については地元住民との協働により行います。

- 針葉樹の豊かさを引き続き保全します。
- 森の散策のために、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れます。
- 林床の一部には、下層植生の多様化や山野草の花壇等を整備し、散策を楽しむことができる演出を行います。
- 間伐や一部広葉樹への樹種転換を行います。

林間ゾーン

- アカマツ林床の保護を図るため、マレットゴルフ場やアスレチックの現況コースの改良等を検討します。

自然観察林ゾーン

- 原則として人の手を加えない区域とし、自然中心の広がりを持った空間として整備します。

2-5 ふれあい交流エリアの施設計画

2-5-1 施設整備の課題

整備が必要な施設等の現況と課題は次表のとおりです。

整備が必要な施設等の現況と課題（ふれあい交流エリア）

現 況	課 題
交流のための情報発信機能が必要である。	情報ネットワークの整備
現プール(50m、25m、幼児プール)施設の老朽化が進んでいる。	利用者のニーズに見合ったリニューアルが求められる。
公園内施設への誘導のための案内が不十分である。	来園者にわかりやすく、かつ景観にマッチした統一感のある公園内案内設備の整備
利用形態の変化などにより、大芝荘の宿泊機能が利用者のニーズにより多様化している。	宿泊室のリニューアルが必要
村研修センターの老朽化が進んでいる。	より内容の濃い研修・合宿等に対応できるよう整備が必要
大芝湖畔は、独立した親水空間として親しまれているが、玉石が経年変化により露出し、危険。	多目的広場と連続した空間づくりと親水性豊かな水辺づくりが必要

2-5-2 施設計画の方向性

既存の公園施設の活性化を図り、地域間交流（ヨコの交流）、異世代交流（タテの交流）を具現化する時空間づくりを目指します。また、エリアとしての緑の連続性を保持するために、公園内には、できるだけ広葉落葉樹を植栽し、四季折々の色彩の中に公園施設が点在する美しい景観形成にも配慮するものとします。

スポーツゾーン

- 老朽化した 50m プールについて、廃止を含めて改善策を検討し、25m プール周辺のクオリティアップ（質向上）を図ります。

宿泊・リラックスゾーン

- 村研修センターをリニューアルします。
- 大芝湖周辺は、多目的広場と連続したネットワーク空間づくりを進めるとともに、親水性豊かな水辺づくりを進めます。
- 味工房のリニューアルに足湯の機能を加えることにより、森林浴と温泉浴、安全な食や地場産品などを提供し、交流を活性化させる空間づくりを目指します。

健康ゾーン

- 大芝の湯について、長期間使用できる状態を維持することを目的に適切なメンテナンスを実施するとともに、必要な修繕を進めます。

3 新規施設計画

3-1 新規計画施設の概要

3-1-1 情報交流ステーション（情報収集・発信）

(1) 施設のイメージ

今の時代に欠かせない武器であるIT（情報通信技術）をうまく大芝高原にも取り込んで、情報交流ステーションを整備し、人的交流の場へとつなげます。

■インフォメーションセンター（地域案内人）

◇館内及び高原の説明

◇広域エリア情報の提供

◇交通情報の提供

(2) 計画の概要

施設の整備は、情報通信基盤の構築が肝要です。また、現在の管理事務所の機能を統合することを視野に入れます。

ふれあい交流センター、あるいは大芝荘等の屋内にブース等の一角を設け、各施設と連携する中で、地域イントラネットによるネットワーク化を図ります。そして、この空間を利用することで、大芝高原に集う人同士の交流サロンの創出につなげます。

3-1-2 公園内施設案内・誘導設備

平成20年度の公園入口看板及び誘導看板の整備に伴い、以前に比べ格段に大芝高原の入口が分かりやすくなりました。今後は、公園内に入ってから各施設へ適切に誘導するための誘導看板等の設置が課題であり、整備の際には統一性を考えながらガイドラインを設けて進めることが重要なポイントと考えられます。

4 リニューアル計画

信州大芝高原には多くの公園施設が整備され、多くの人々に利用されています。これらの公園施設の中には、経年変化に伴い老朽化が進み、リニューアルを必要とするものが多くあります。これらのリニューアルに際しては、老朽化の状況を常に正確に把握し、「大芝の豊かな森との調和、自然との共生による持続的空間づくり」を念頭において、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れながら計画的に実施することが肝要です。ここでは、現状で特に課題とすべきものを取り上げることとします。

4-1 周辺道路

大芝高原への県内からのアクセスのほとんどは、中央自動車道・伊那インターから伊那西部広域農道を通して、中央園路経由で駐車場へ至る経路をとるものと考えられます。このため、伊那西部広域農道の交差点改良や歩道整備を進めてきていますが、引き続き公園周辺道路や村道6号線などの主要幹線道路の改良整備（歩道設置を含む。）を、広域ネットワークを念頭に置いて計画的に実施する必要があります。

4-2 遊歩道

4-2-1 遊歩道の施設特性

高原全体をネットワークする遊歩道は、高原内各施設を結ぶとともに、森林浴に欠かせないものであり、森の小道として改めて機能する必要があります。

4-2-2 遊歩道の内容

遊歩道は、その機能に応じた適切な素材を利用して整備するものとします。基本的には、碎石等の敷均しで対応しますが、車いす利用者などの利用が想定される遊歩道には、ユニバーサルデザインの考えに沿って、天然砂利や木質チップを用いた舗装で対処する必要があります。

4-3 駐車場の配置

信州大芝高原の既存の駐車場は、11か所（すべて無料）、619台分です。

- ① 屋内運動場西駐車場（128台）
- ② 屋内運動場入口前駐車場（10台程度 ※区画線なし）
- ③ ふれあい交流センター「大芝の湯」駐車場（30台）
- ④ 味工房駐車場（51台）
- ⑤ キャンプ場駐車場（46台）
- ⑥ プール駐車場（127台）
- ⑦ 大芝荘駐車場（57台 ※玄関前、障がい者用2区画含む）
- ⑧ マレットゴルフ場北駐車場（31台）
- ⑨ マレットゴルフ場南駐車場（92台）
- ⑩ 大芝湖東側駐車場（44台）
- ⑪ みんなの森 障がい者用駐車場（3台）

これらの駐車場は、いずれも施設対応型で設けられており、配置的には適度に分散されています。ただし、近年整備された大芝の湯やセラピーロードの周辺は日によって混雑する場合があります、多少の増設を主眼とした整備の検討を要します。

4-4 トイレの適正配置

現況 11 か所のトイレのうち、多目的トイレは3か所（野球場北、大芝湖西南、大芝湖東）しかなく、公園全体のユニバーサルデザインの実現からはほど遠い現状なので、今後計画的に多目的トイレに改修する必要があります。

- ・新設：自然林ゾーン、自然観察林ゾーンへは、それぞれ必要に応じて新設が必要となりますが、このトイレは、環境対応型の小規模なものとしします。

4-5 野球場

老朽化により、スコアボード、バックネット及び関連電気設備のリニューアルが必要となっておりますが、応急的な対策として、カラーコーディネイトを考えた塗装を施す必要があります。スタンドの建設、ナイトゲーム用の照明設備等については、BCリーグや高校野球チームの合宿等のための環境向上の必要性は多分に認められるものの、慎重に検討を重ねていくべきです。

4-6 アスレチック施設

- 老朽化によって安全性に問題が生じる可能性もありますが、需要は高く、修繕をしながら使用していきます。
- 大芝湖西の遊具についても老朽化が進んでおり整備が必要となります。その際は、年代ごとの需要をよく見極めた上での整備としたい。

4-7 マレットゴルフ場

マレットゴルフ場は、人気が高く利用率が高いため、必要な改善・修繕を実施していきます。

4-8 研修センター

老朽化が進んでいます。

現在はフォレスト大芝で収容しきれない等の場合にやむをえず使用している状態ですが、研修受講者のモチベーション（動機づけ）を高く保ち、より内容の濃い研修成果を求めるためには、ある程度の新鮮さを感じられる施設として整備しておく必要があります。

4-9 公共下水道

中央園路には公共下水道が整備されているものの、公園内のトイレについて一部未整備の箇所が残されているため、計画的な整備を検討します。

4-10 その他

- 防火施設及び防火体制

公園内及びみんなの森内の各所に消火栓を設置していますが、高原内の自然林の防火・消防のための防火施設及び防火体制の強化が必要です。防火施設の配置及び個数等については、別途関係機関と協議のうえ検討し、必要に応じて設置するものとしします。

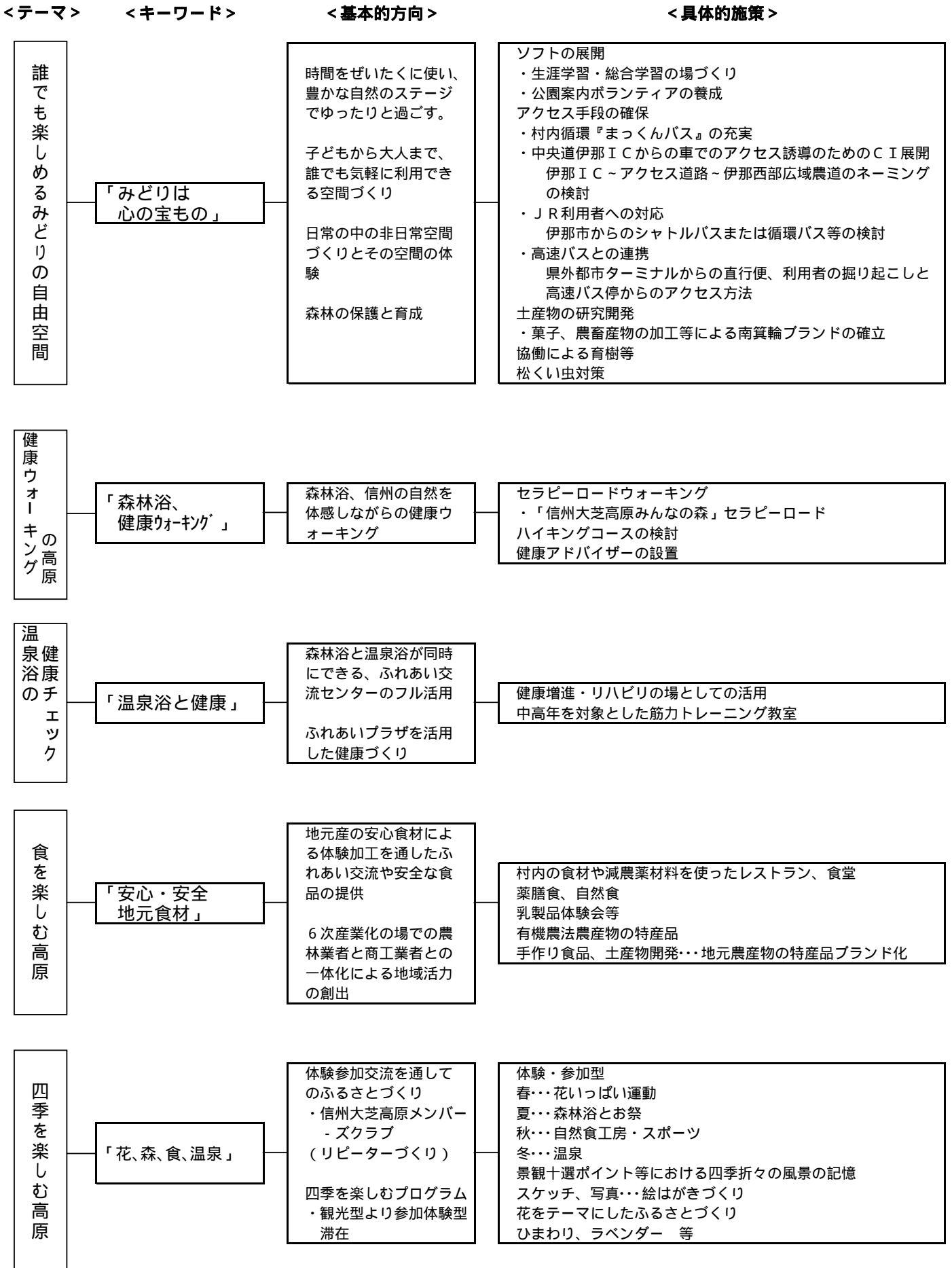
5 ソフト事業計画

5-1 ソフト事業展開の方向性

おおむね次のような考え方により、大芝高原ブランド、南箕輪ブランドの確立を目指します。

- 「森林セラピーロード」の癒し効果を最大限活用します。
- 地元産農産物の利用や温泉利用による食・健康づくりや農林業体験の場にしていきます。
- 伊那木曾連絡道路（権兵衛峠道路他）の開通を追い風にして、広域観光を推進します。
- 春から秋までのみにぎわいとどまらず、通年利用されるスポットに育てます。特に、冬場のイベント等を検討し、グレイシーズンである冬場の集客力の強化を図ります。
- リピーター対策及び通年営業となる大芝高原味工房の集客力の強化を図ります。
- 上伊那郡南部から北上を続ける松くい虫による被害からアカマツを守ります。
- 気持ちよく来場者を迎えられるよう公園内や施設内を清潔に保ち、リピートされるような観光地を目指します。
- 特産品の活用やオリジナル商品の開発などにより、大芝高原ブランドとなりえる商品の開発を進めます。
- ホームページ等を利用した観光情報の積極的な発信を行います。

5-2 ソフト事業展開におけるテーマと基本方針



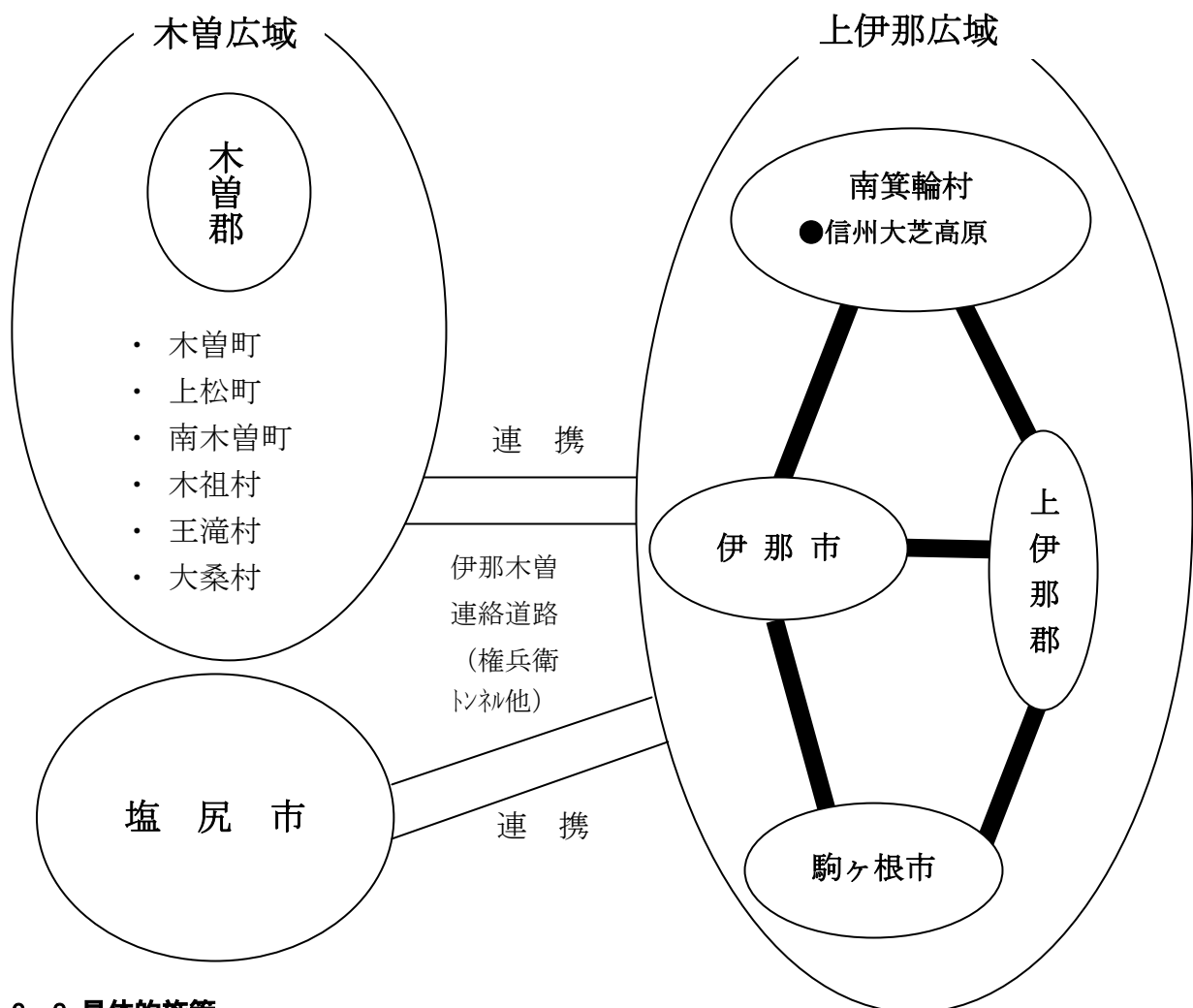
5-3 ソフト事業の広域的展開

5-3-1 基本的方向

- ◇ 上伊那各市町村の公園等をつなぐネットワークづくり
- ◇ 信州大芝高原を拠点とする広域観光・交通ネットワークづくり

伊那木曾連絡道路（権兵衛トンネル他）の開通によって、信州大芝高原は、より広域的な集客拠点となることが予測されており、これによって、上伊那の周辺各市町村の活性化に一つのはずみがつくものと考えられます。したがって、各市町村の保有する施設群をネットワーク化し環境を整備することが、ソフト展開の上でも重要な意味を持ててきます。

これらの施設整備等によって、信州大芝高原の拠点性を増大させるとともに、自然とのふれあい、人々の交流機会が、従前以上に促進されることが期待されており、同時に、上伊那地域のボトムアップはソフト展開上、木曾広域・塩尻市との連携による観光・交流促進にもつながり、地域産業全体に好影響を与えるものと考えられます。



5-3-2 具体的施策

- ◇ 大芝公園の拠点化への取組み
 - ・ 上伊那各市町村との面と面とのネットワークづくり
- ◇ 駒ヶ岳ロープウェイ・南アルプス林道バスなどとの上伊那観光ネットワークづくり
- ◇ 木曾谷、諏訪地方などとの広域観光ルートの確立
- ◇ 中央道高速バスでつながる広域観光、「信州伊那路ツアー」

6 資料編

大芝高原利活用等審議会名簿

平成 19 年 12 月 ~ 平成 21 年 12 月

役名	氏名	推薦団体・公募等	備考
会長	伊藤 幸雄	北殿区推薦	
副会長	春日 茂人	公募委員	
副会長	小林 孝子	識見者	
	堀 正	久保区推薦	
	岩井 徹雄	中込区推薦	
	池田 勤	塩ノ井区推薦	
	西 安正	北殿区推薦	
	清水 國洋	南殿区推薦	
	宇留賀久幸	田畑区推薦	
	原 久恵	神子柴区推薦	
	伊久間美昭	沢尻区推薦	
	伊澤 文雄	南原区推薦	
	安積 秀子	大芝区推薦	
	西巻 義雄	大泉区推薦	
	宮本 勝美	北原区推薦	
	倉田加代子	公募委員	
	西森 一博	〃	
	白鳥 嘉文	識見者	
	両角 忠幸	〃	
	堀 正秋	〃	
	植田 正子	〃	
	孕石 勝市	村議会議員	
	小坂 泰夫	〃	平成 20 年 2 月 ~
	征矢 鑑	識見者	~ 平成 20 年 10 月
	有賀 彰司	村議会議員	~ 平成 20 年 2 月

平成 20 年 3 月 25 日

南箕輪村長 唐 木 一 直 様

南箕輪村大芝高原利活用等審議会

会 長 伊 藤 幸 雄

信州大芝高原総合利用計画の改正について【うち大芝高原味工房及び足湯に関する部分】(答申)

平成 19 年 12 月 27 日に諮問のありましたこのことについて、別記のとおり答申します。

諮問された味工房の建設については、第 4 次総合計画に基づき先行して計画が進められ、基本設計完成段階で意見が求められましたので、これらのことを前提に審議をいたしました。

審議会でもとめた意見は下記のとおりです。

記

- 1 味工房の建設に当たっては、大芝高原の自然との調和を十分に考慮し、現段階で可能な限りユニバーサルデザインに配慮した施設にすることが望ましい。
- 2 グレーゾーンとなる冬場の誘客を考えれば、味工房は通年の営業が望ましいと考える。したがって、足湯についても、通年営業できるよう安全面、衛生面、冬場の防寒対策等に配慮した施設にする必要がある。
ただし、通年営業が望ましいといっても、費用対効果の面から十分な研究をされたい。

平成 20 年 6 月 27 日

南箕輪村長 唐 木 一 直 様

南箕輪村大芝高原利活用等審議会
会 長 伊 藤 幸 雄

信州大芝高原総合利用計画の改正について【うち大芝高原入口看板及び誘導・案内看板について】(答申)

平成 19 年 12 月 27 日に諮問のありましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

1 誘導看板について

大芝高原へ来場される方を適切に誘導できるよう、誘導看板の設置場所、表示内容の見直しをされたい。

2 大芝高原入口の看板設置について

現在、大芝高原の入口が分かりにくいことから、入口であることがすぐに分かるよう、大芝高原の入口へ看板を設置されたい。設置の際は、大芝高原の顔となるような看板が望ましい。

3 大芝高原内施設案内看板について

大芝高原内には各種施設があり、それぞれの施設への適切な案内が必要である。また、今年度には大芝高原味工房もリニューアルされることから、味工房の建設に合わせて大芝高原内に入ってから各施設へ分かりやすく案内できる看板の設置をされたい。設置の際は、統一されたデザインでの案内看板とされたい。

平成 20 年 12 月 3 日

南箕輪村長 唐 木 一 直 様

南箕輪村大芝高原利活用等審議会
会 長 伊 藤 幸 雄

信州大芝高原総合利用計画の改正について【うち味工房(ソフト事業関連)について】
(答申)

平成 19 年 12 月 27 日に諮問のありましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

味工房は今年度の新施設建設に伴い、大芝荘・大芝の湯と並んで大芝高原の中心的な施設となることから、大芝高原の情報発信の場となるとともに大芝高原のブランド化に力を入れ、民間感覚を取り入れた運営となるよう指定管理者である南箕輪村開発公社と協力し、取り組まれない。

平成 21 年 10 月 21 日

南箕輪村長 唐 木 一 直 様

南箕輪村大芝高原利活用等審議会
会 長 伊 藤 幸 雄

信州大芝高原総合利用計画の改正について（答申）

平成 19 年 12 月 27 日に諮問のありました「信州大芝高原総合利用計画」の改正について、計画案を取りまとめましたので答申します。

信州大芝高原総合利用計画策定経過（南箕輪村大芝高原利活用等審議会）

回数	内容
第1回【H19.12.27 開催】	信州大芝高原総合利用計画の改正について 味工房等の改修事業について 審議会の予定について
第2回【H20.1.30 開催】	信州大芝高原総合利用計画（案）に関する質問・意見等の 取りまとめについて
第3回【H20.2.13 開催】	大芝高原味工房及び足湯に関する部分について
第4回【H20.3.5 開催】	大芝高原味工房及び足湯に関する部分の答申内容について
第5回【H20.4.23 開催】	大芝高原入口看板及び誘導・案内看板について
第6回【H20.6.19 開催】	大芝高原入口看板及び誘導・案内看板の答申内容について
第7回【H20.7.24 開催】	大芝高原味工房（ソフト事業関連）について
第8回【H20.9.25 開催】	大芝高原味工房（ソフト事業関連）について
第9回【H20.10.23 開催】	大芝高原味工房（ソフト事業関連）について
第10回【H20.11.20 開催】	大芝高原味工房（ソフト事業関連）の答申内容について
第11回【H21.2.26 開催】	大芝高原森林部分の活用等について
第12回【H21.3.26 開催】	信州大芝高原総合利用計画の改正について
第13回【H21.4.23 開催】	信州大芝高原総合利用計画の改正について
第14回【H21.5.28 開催】	信州大芝高原総合利用計画の改正について
第15回【H21.6.25 開催】	5年後・10年後の大芝高原について
第16回【H21.9.24 開催】	信州大芝高原総合利用計画（案）の答申内容について

諮問・答申

実施時期	内 容
平成 19 年 12 月 27 日	信州大芝高原総合利用計画の改定について諮問
平成 19 年 3 月 25 日	信州大芝高原総合利用計画の改正について【うち大芝高原味工房及び足湯に関する部分について】(答申)
平成 20 年 6 月 27 日	信州大芝高原総合利用計画の改正について【うち大芝高原入口看板及び誘導・案内看板について】(答申)
平成 20 年 12 月 3 日	信州大芝高原総合利用計画の改正について【うち味工房(ソフト事業関連)について】(答申)
平成 21 年 10 月 21 日	信州大芝高原総合利用計画の改正について(答申)

信州大芝高原総合利用計画

平成 21 年 12 月

編集・発行 / 南箕輪村 総務課

〒399-4592 長野県上伊那郡南箕輪村 4825 番地 1

TEL : 0265 72 2104 FAX : 0265 73 9799

E-mail : vilm-m@vill.minamiminowa.nagano.jp